

緑の相談所だより

-35号-

〔8・9月号 1995. 8. 1発行 編集：旭川市緑の相談所〕

講

■野草ガイドブックづくり
(自分の植物標本を作ろう)

■秋の

習

日時：8月6日(日)、8月13日(日)
午前10～12時

防除剪定

薬剤を使った秋の防除。
秋の剪定。

会

講師：旭川市立大有小学校
福地徳次先生

定員：30(60名)

日時：9月10日(日) 午後1～3時

講師：旭川市緑の相談所

相談員 小島博昭 定員：60名

一

材料費：200円

■初心者のための盆栽作り

案

お申し込みはいつでも
☎65-5553

庭の木を鉢の中におさめるには・・・

日時：9月24日(日) 午後1～3時 定員：30名

講師：旭川市緑の相談所 相談員 本郷仁

内

場所：緑の相談所横広場

園芸市 切り花市 サークル作品展示 フリーマーケット

フラワーアレンジメント講座 屋外緑の相談

納涼ビアガーデン

緑のセンターまつり'95

球根・花株プレゼント

8月12日(日)

金魚すくい・わたアメ・餅つきお楽しみコーナー

午後10～午後8時

グリーンコンサート(神楽岡小・緑が丘中の吹奏楽演奏)

この時期 園芸べからず 集

- 庭木、果樹の枝は切るべからず・・・よく伸びるフジ、ブドウも切りたいけれど切
ってははいけません。じっと我慢。
- 8月、木に肥料をやるべからず・・・木の根は夏休み中、肥料は食べてはくれませ
ん。9月中旬から冬に備えてカリ分の多い肥
料を。果樹は収穫後お礼肥。
- シベ ジュム 肥料をやるべからず・・・8月中旬から花芽分化の開始時期、肥料は花
芽を葉に変えてしまいます。
- カエデ強い風に当てるべからず・・・葉に傷がつくと秋、美しく紅葉しません。勿
論、肥料が効きすぎても同じです。
- 洋蘭秋の長雨に当てるべからず・・・8月中旬以降、気温の低下する時期に戸外管
理の鉢に注意。根が腐れます。
- 早霜に注意怠るべからず・・・9月の初めになると時ならぬ冷え込みで降霜
に見舞われることがあります。戸外管理の洋
蘭、観葉植物、水分の多いサボテン、庭のダ
リアなど思わぬ被害を受けます。天気予報に
注意するとともに前もって手だてをしておく
ことです。
- 球根、植え忘れるべからず・・・秋植え球根の植え込みは8月の中旬から。9
月中には終わらせた方がベスト。元肥は球根
に直接触れないように注意。ダイアジノン粉
剤などをまぶして植えると土中の害虫から守
ることが出来ます。
- 夜、付き合わせるべからず・・・ロケア、ポインセチアなどは日暮れと共に夜
を迎えることが出来るようにします。人間の
都合で電灯の明かりに付き合わせる時間が長
くなればなるほど花は咲きません。晩酌は球
根ペコニアのように電灯の光が好きな花と一
緒にゆっくりやりましょう。
- すべてに過ぎるべからず・・・水のやり過ぎ、肥料のやり過ぎ、温度のかけ
過ぎ、乾燥のし過ぎ、いじり過ぎ、可愛がり
過ぎ、心配のし過ぎ。すべて植物を扱うのに
は有害なもの。過ぎたるは及ぼざるが如し。

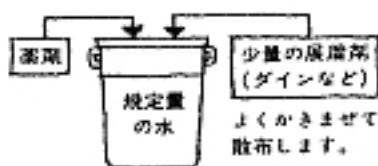
8月中旬に1週間くらいの生育の休止期はありますが、7～8月は樹木類にとっては生育の最盛期と同時に病、虫にとっても活動期です。このような時期での薬剤による防除は次の事柄に留意し、樹木類が十分な生育をし、休眠期（秋の）に入れる状態をつくってやるようにします。

◎夏の薬剤による防除

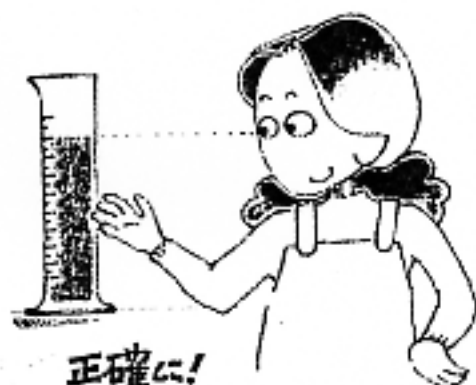
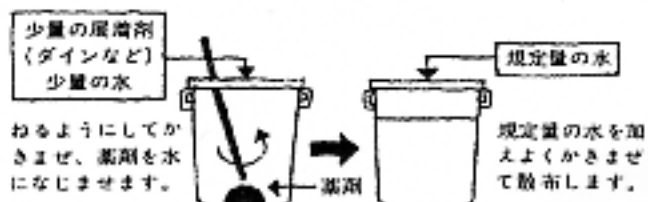
△薬剤のうすめ方

夏は高温の時期です。うすめに作って（1000倍のものは1100～1200倍に）使用するようにします。

●乳剤のうすめ方



●水和剤のうすめ方



希釈倍数はできるだけ正確に

△薬剤散布のしかた

日中の散布は絶対にさけることと同時に、風下からの散布もさけ、常に風上からの散布を心がけるようにし、散布作業が終わったら体の露出部分は必ず流水で洗うようにします。



8月の園芸作業

* 露地・花壇・・・夏花壇の花から摘みと追肥、秋花壇の植え込み。サルビア、キンギョソウなど花がまばらになった株は一斉に切り返しをする。春花壇用の苗の移植は下旬から。秋植え球根は中旬以降定植。正月頃咲かせたいスイセンやチューリップは湿ったミズゴケに包んで冷蔵庫の中へ保管する。

* 鉢花・・・中旬以降は夏負け気味の鉢物にも元気が戻り、葉なの色も冴えてきます。追肥の時期です。高温を好む熱帯花木や熱帯性の球根類は夜間室内に取り込んだ方がよい。中旬以降は夕方から夜の灌水は禁物。天候に合わせて日除けの掛け外しを行うが、月末になると不要になる。挿し木苗の根がしっかりした物は鉢に上げる。

* 観葉植物・・・鉢花と同じように日除けの掛け、外しを下旬まで繰り返し、徐々に直射日光に馴らす。中旬から置き肥や追肥をする。室内での越冬が理想的に出来る場合や、ハウス、温室などがある場合は下旬が株分け、植え替えの適期。高温を好む種類は中旬以降夜間は室内に取り込む。

* 洋蘭・・・熱帯産の多い洋蘭にも上旬の気温は高すぎる場合が多いので、風通しを良くし涼しく管理します。夏咲き以外のカトレアでは休眠中の株が多いので灌水には注意。下旬には日除けを50%程度にする。最低気温が10℃を下回る時間が3時間以上続くようになればカトレア、バンダ、デンファレ、ファレノプシスなど高温性の種類は夜は室内へ。シンビジューム、デンドロビュームのバルブが充実してきます。シンビジュームは中旬から花芽分化が始まります。急激な環境変化を避けて、十分涼しさに合うことが出来るよう管理します。新芽の伸びて来る種類や株には灌水と肥料をやりますが濃い肥料は禁物です。

9月の園芸作業

* 露地・花壇・・・夜の温度が下がり花壇や秋咲きの宿根草の花の色が鮮やかになります。霜の心配がでてきます。小規模の花壇やダリヤの花などには新聞紙などで被いをしてやります。秋植え球根類の植え付け適期、中旬迄に終わらせましょう。宿根草の株分け、植え付けも中旬までに終わらせると理想的。強い霜の後は春植え球根の掘り上げと貯蔵、夏花壇も終わりになるので後始末をします。

* 鉢花・・・寒さに弱い鉢花は霜の来る前に室内へ取り入れる。熱帯花木等も同様。室内に取り入れる前は十分に日光にあて、室内の置き場所は涼しく湿度の保てるところが望ましく、極端に温度が高くなるところは避ける。条件が良ければ植え替え、株分け等も良い。球根ベゴニアは夕方から電灯の下で日長を長くする管理を続けると花が咲き続ける。短日性のロケア、ポインセチアは反対に日没後は灯りに当てないように注意する。椿、梅などはまだまだ屋外で良い。下旬には外で冬越しをする鉢物は来月の冬囲いに備えて整理して置く。屋内では灌水過多に注意する。シャコバサボテン、クジャクサボテン、カニバサボテンなどは下旬から水を徐々に控え目にしていく。

* 観葉植物・・・早霜に注意。中旬以降は室内へ取り入れるが、暖かい日中は外でよい。室内では急激な高温・湿度不足に注意する。

* 洋蘭・・・高温性の種類は中旬には室内へ取り込む。シンビジュームやデンドロビュームも霜が心配の夜は室内へ。日中は十分光に当てる。秋の長雨には当てないこと。デンドロビュームは下旬からは灌水を控え目にする。小型のシンビジュームは花芽が大きくなっていき、冬咲きの大型も花芽の分化が進んでいる時期なので、急激な環境変化は避けて、涼しい環境で管理する。カトレアなどの株分けは温度条件をみて行うが冬咲きの種類では中旬以降は行わない。